

財務状況の全般的説明

1. 平成 30 年度の財務状況

高野山学園における平成 30 年度の財務状況において、ここ数年の本学の課題の一つであった学生・生徒数確保について大学部門では社会人編入生・留学生が増加したため、学生生徒等納付金収入は前年度と比べ 2,285 万円増加している（当初予算より 352 万円減少）。

18 歳以下人口が減少する中で学生・生徒の確保は困難な時代であり、改めて本学が社会に果たす使命、また受験生のニーズを見直し、戦略をもって学生・生徒数の増加に努めていく必要がある。さらに学園の各種特定資産についても、安全性を損なわない商品で少しでも高い利率での運用ができないか、金融機関を巻き込んだ上での検討が必要である。

(1) 資金収支計算書

①資金収支計算書の概要

資金収支計算書について

資金収支計算書は、当該年度の諸活動に関するすべての収支の内容、および支払資金の顛末を明示する計算書類である。

②平成 30 年度の財務状況

■寄付金収入・補助金収入の増加

勸学財団解散による基金の寄付、および大学部門の(株)フジキンによるブランディング事業のための寄付などにより、寄付金収入は前年度より 9 億 357 万円の増額となった。補助金収入においては、算定基準に基づく学内制度の整備、また私立大学ブランディング事業中止に伴う特別補助の増額により、前年度より 4,516 万円の増額となった。今後は学生・生徒数の確保に加え外部資金の獲得について戦略的に実施する予定である。

■修繕費支出の増加

設備の老朽化および台風 21 号の被害により、教育研究経費のうち修繕費支出が 604 万円増加した。頻発する異常気象に事後対応するだけでなく、改修についても計画を立てて進めてゆく必要がある。

■資産運用支出の増加

勸学財団解散による寄付金について全額を特定資産として運用を開始した結果、前年度より 8 億 7,538 万円増額した。

(2) 事業活動収支計算書

①事業活動収支計算書の概要

■事業活動収支計算書について

事業活動収支計算書は、当該会計年度における事業活動収入と事業活動支出を対比し、収支の均衡状態と内容を明確にする、企業会計における損益計算書に当たるものである。その意味では、単年度の収支（赤字/黒字）をうかがう上での指標となる計算書である。

②平成 30 年度の財務状況

■事業活動収支の動向

平成 30 年度決算では、前年度決算と比して事業活動収入は 10 億 3,826 万円の増加、一方事業活動支出は 7,504 万円の減少となっている。収入の増加については(1)-②にあるとおり寄付金・補助金の増額によるものである。支出の減少については、前年度に実施した高等学校宿舍の大規模修繕に伴い増加した管理修繕費ならびに図書棚卸に伴う図書資産除却の反動によるものである。各部署により経費投入の見極めを行う体制が進む一方で、校舎・宿舍の老朽化や寒冷地であること、また耐震対応を行う必要性などから修繕費・光水熱費の負担が重くなりつつある。建物や備品の改修計画や資金計画の策定・実施が望まれる。

(3) 活動区分資金収支計算書

■活動区分資金収支計算書の概要

活動区分資金収支計算書は、企業会計でいえば損益計算書に当たる。資金収支計算書の決算額を三つの活動区分（教育活動／施設整備など活動／その他の活動）に分けて表しており、活動毎の資金の流れを明らかにするものである。

(4) 貸借対照表

①貸借対照表の概要

■貸借対照表について

貸借対照表は、年度末の財政状態を、資産・負債・正味財産（基本金、繰越収支差額）で表す。貸借対照表では、当年度末と前年度末での資産等の変動を対比している。

②平成 30 年度の財務状況

■資産の増加

平成 30 年度末では、特定資産が 7 億 1,284 万円増加している。これは(1)-②にある勸学財団寄付金の特定資産繰入の影響によるものである。

■負債の増加

平成 30 年度末では流動負債が 3,807 万円増加している。この増加は、高等学校職員の退職金未払計上によるものであり、資産においても同職員の退職に伴う退職金財団交付金収入として未収入金が増額している。